



2014 北海道トレセン U-14 エリートキャンプ

【報告者】 所 桂太郎 佐藤 尽
 大年 貴之 本村 俊三
 伊藤 佳史 宮本 英樹
 (北海道トレセン U-14 スタッフ)

2014年10月17日～19日

公益財団法人
北海道サッカー協会



会場: SSAP 札幌市東雁来公園人工芝サッカー場

1 事業の概要

本事業は、10月17日から19日の3日間、札幌サッカーアミューズメントパーク・札幌市東雁来公園人工芝サッカー場を会場に、8月に行った北海道トレセン秋季キャンプで選考した24名(1名ケガのため辞退)を招集しトレーニングを行い、最終日には札幌大谷高校とのゲームを行った。

また、本事業終了後、11月に行われるナショナルトレセンU-14後期に派遣するメンバー16名を選考した。

前日からの悪天候で、予定していた会場が使えなくなるなどのハプニングはあったものの、3日間の日程を順調に運ぶ事ができた。



【招集メンバー】

佐藤 有悟	船戸 一輝	飯野 慶太
福田心之助	山保 璃空	前川 廉
宮脇 健太	中村 友哉	田中 銀平
高島 舜介	野開ディラン	
北口 智規	池田 蓮	

(以上コンサドーレ札幌)

谷口 明典	鴨川 寛也
-------	-------

(以上コンサドーレ旭川)

池高 暢希	山本美野里	成田 新
山田 凌右		

(以上 SSS)

仁科 宥哉	金澤 魁星	遠藤 正志
-------	-------	-------

(以上アンフィニ MAKI.FC)

村上 悠緋	
-------	--

(フロンティア・トルナーレ)

高木 謙	
------	--

(北湘南 SS)

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
 日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
 和歌山国体(2015)までには優勝を！！

2 トレーニングについて

短い合宿の中、守備（中盤で積極的に奪う守備）と攻撃（CFを使った崩し）をテーマにトレーニングを行った。

守備では、これまでの積み上げの成果としてポジショニングやコンタクトスキルの向上が見られ、積極的に守備へ参加し奪いに行くプレーが見られた。しかし、グループでの守備の理解度がまだ低く、マークばかりを意識してしまい、危ないエリア・スペースを空けてしまうなどの現象が多く見られた。ボールを中心に守備をし、エリアを限定しながらその中で自分のエリアに入ってきたボール、または相手選手へどのように対応するかを判断することが必要だと思う。さらにそれをグループとして行えるようになりたい。

攻撃では、身体的な成長に加え、状況判断をしようとしている選手が増えたため、積極的なゴールへの仕掛けや、背後への飛び出すシーンが多く見られ、プレースピードも上がっていると感じた。しかし、相手の守備の状況や味方ボール保持者のボール状況などを認知した上での仕掛けや飛び出しの判断だったかという意味では、物足りなさを感じた。また、ボールに関わる人数そのものがまだ少ない場面が多く、二人、三人ではなく、攻撃の流れを予測し四人目、五人目とボールに関わろうとする選手が出てれば攻撃の幅も広がると思われる。さらに味方選手が動き出し作ったスペースを使うなど、仲間選手と関わりながらの判断が必要になってくる。



3 GKについて

今回 GK ではシュートストップ、クロスの対応のトレーニングを行った。

シュートストップにおいては、キャッチング、ローリングダウン、ダイビング、ディフレクティングといった基本的技術の向上が感じられた。ただ基本姿勢の部分で、「シュートに対する準備」のタイミングが遅く、「構える」という意識は強く感じられるものの「いつ構えるのか」という部分でもっとトレーニングが必要ではないかと感じた。

クロスの対応では、的確なボールの落下地点が把握できないという現象が出ていた。またクロスに対するポジショニングも適切なポジショニングが取れず、クロスボールが直接ゴールしてしまう現象も見られた。ポジショニングに関してはまずしっかりと基本的なポジショニングを確認した上でDFを入れたトレーニングが必要だと感じた。

ゲームに関しては怪我をした選手が多く、ポゼッション、有効的な攻撃参加という点でなかなか困難な部分もあったが、選手一人一

人が高い意識を持ち積極的に参加していた。攻撃の優先順位等の意識はあるが、キックの技術、スローイングの技術の向上は必要ではないかと感じた。



4 ゲーム (vs 札幌大谷高校)

札幌大谷戦では、体格もスピードも格上の相手との対戦であったが、怯むことなく戦えたことは、評価に値すると思われる。

守備では、ボールを中心としたポジションバランスには改善の余地はあるが、球際での対応など個人でボールを奪うシーンが見られた事は良かった。

攻撃では、相手守備ラインが高かったこともあるが、背後へ抜け出すシーンが見られた。カウンターの判断は悪くはないのだが、味方が押し上げてサポートする意識やスピードも必要だと思う。また、ボール保持者もより厚みのある攻撃をするためにも、前線でタメを作り味方が押し上げる時間を作るなどの工夫も必要だと思う。攻撃の目的でもあるゴールという意味でも、シュート数に対してのゴールの数は足りなかった。

5 おわりに

本事業は、ナショナルトレセン U-14 後期が、『地域対抗のゲーム方式』に変わったことで、今年度から新しく行った事業である。

今回は昨年度からの積み上げを含めたトレーニングとゲームを行ったが、我々トレセンスタッフも手探りの部分があったことは否めない。ナショナルトレセンの方式が変わらなければ次年度以降もこの形が継続されるので、この事業をどのように進めるのか、日程・内容も含め、選手のためにより良い形を模索していきたい。

また、お忙しい中練習試合にご協力頂いた札幌大谷高校のスタッフ・選手の皆様に感謝申し上げます。

最後に、選手を送り出していただいた各チームの指導者・保護者の皆様には、こちらの不手際で集合時間等にミスがあり、大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

